

◆編集・発行

茨城町 町長公室 秘書広聴課
〒311-3192
茨城県東茨城郡茨城町小堤1080
☎ 029-292-1111
メールアドレス
ibarakit@town.ibaraki.lg.jp

◆人口

住民基本台帳
令和2年10月末現在
男 16,096人
女 15,971人
総人口 32,067人
世帯数 13,305世帯

◆茨城町民憲章

- 1 ふるさとの自然を守り、美しい環境の町をつくりましょう。
- 1 からだをきたえ、教養を高めて、すこやかな町をつくりましょう。
- 1 隣人や家庭の愛を大切に、まごころのかよい合う町をつくりましょう。
- 1 自分の仕事に責任と誇りを持ち、活気に満ちた町をつくりましょう。
- 1 文化遺産を愛護し、先人の努力に感謝できる町をつくりましょう。

◆町の花 桜

◆町の木 梅

◆町の鳥 うぐいす

◆町の防災行政無線が聞き取れなかった場合

防災行政無線テレホンサービス
☎ 0800-800-8848
(通話料無料)

町ホームページにも放送内容を掲載しています。

◆町の情報発信中!!

- 町公式ホームページ
<http://www.town.ibaraki.lg.jp/>
- 町公式ツイッター
<https://twitter.com/IbarakiTownMati/>
- 町公式インスタグラム
https://www.instagram.com/townibaraki_official/



里山に育む生きものたち

No.100 タマシギ

学名 Rostratula benghalensis

文 山口 萬壽美
写真 清水 道雄

▼本町で二度目の確認
タマシギが茨城町で見つかったのは、今回で二度目となります。一度目は昭和62年7月で、涸沼大橋近くの水田で一羽のメスがデイスプレー（求愛行動）をしているところを偶然発見することができました。

今回は、令和2年8月4日に、「茨城町自然観察クラブ」のメンバーである清水道雄さんが、涸沼の下流域である前谷の水田で、ひなを連れ歩くオスの貴重な姿を写真に納めてくれました。

▼主な特徴

タマシギ科は世界に二種類が生息しており、アジア南部やインド、南アフリカなどに分布しています。日本で繁殖しているのは、そのうち一種のみです。

▼習性

タマシギのメスはオスよりも色彩が美しく、一妻多夫型の習性を持つために、オスが抱卵して子育てを行うのが大きな特徴です。

夏の繁殖期になると、

留鳥として北陸地方や関東地方以南で繁殖し、湿地や沼地、水田に生育します。東北地方などにも繁殖の記録があります。

夜になると草の生えた水辺を歩きまわり、ミミズや水中に住む昆虫などを捕らえて食べます。

メスは特に、目の周りの白い勾玉状の模様が特徴的です。形はタシギ類に似ていますが、くちばしは短くて先がやや下に曲がっています。また、大きく発達した足を垂らして飛ぶ姿などはクイナ類にも似ています。

▼お父さん、がんばれ!

夜行性かつ警戒心の強いタマシギは、ひっそりと草むらに隠れてしまうことが多く、また、主な生息地である湿地や沼地が減少していることから、生息数は減少傾向にあるといわれています。そのため、四羽ものひなを連れた今回の写真は、とても貴重な一枚と言えます。

8月の暑さの中、涸沼沿岸を子どもたちと歩くタマシギのお父さんに、エールを送りたくになりました。

メスはオスたちに向けて求愛行動を始めます。美しい両羽を広げ、「コオーツ、コオーツ」と十回以上続けて鳴くことでオスに求愛し、卵を産んだ後は巣を離れ、そのままオスが抱卵・子育てに入るのです。

ちびっ子アート ひめま保育園



「おいもほり」

あらき こはる（5歳）

「おともだちとおいもほり」

よねかわ つかさ（6歳）